

TASO クリニック参加報告

東 俊 ・ 東郷 竜二

・ 報告

2023年7月22日(土)、アメリカ・テキサス州、ダラスで開催されましたTASO クリニック (Texas Association of Sports Officials)、2019年に関東審判部から2名参加されて以来、4年ぶりの現地参加となりました。東俊・東郷竜二の2名が参加しましたので、現地での様子をご報告いたします。TASOの沿革や詳細については、HPを参照してください。

(<https://taso.org/about-us/history/>)



・ 関東審判部からの派遣のきっかけ

(創部50周年記念誌“70年の歩み”より抜粋)

1987年(昭和62年)7月に、初めて来日し関東審判部でクリニックを開催したダットサン・ルイス氏の招待によるものであった。同氏は、当時、全体組織であるSOA (Southwest Officials Association)のExecutive Directorであり、この年次大会開催の総責任者であった。1989年(平成元年)1月にフロリダ州マルコ島で開催されたNCAAのルールコミッティに笹田英次氏と、喜入博氏が参加した折に、ルイス氏から同大会への参加の打診があった。その後、1990年5月に同氏から正式に招待があった。当時理事会制度となっていた関東審判部では、この正式な招待に対し、以下の観点から、招待を受けることとした。

- ① 関東審判部として今後の国際化への対応が必要である。
- ② 米国の審判組織の活動状況(組織、運営、教育等)を把握し、部活動に反映する。
- ③ クリニックの教育内容を部活動に反映させる。

この方針を基に、最初の派遣者として当時審判協会理事長であった笹田英次氏、関東審判部長の藪内直樹氏が選出され、1990年(平成4年)8月10日から12日にテキサス州コーパクリスティで開催された1990年度年次大会に両氏が参加した。これ年以降、ほぼ毎年2~3名をTASOの夏季クリニックに派遣するように。前記①~③の方針を維持しつつ、また昔からの審判活動をした部員への配慮を加味して派遣メンバーの選出を行ってきた。

参加された部員のそれぞれの体験は、関東審判部の組織活動、および参加した個人の審判活動に大いに貢献している。この派遣は、当初から一貫してダットサン・ルイス氏の大変な厚情、支援のおかげであり。招待、派遣前の受入準備、および年次大会時の接遇等、多大な貢献に対し、改めて感謝する次第である。

・ 2023年度の参加

東俊は2008年の参加以来5回目、東郷竜二は初参加。今回は“Michael Fitch”(Executive Director)さんが、窓口として対応していただいた。実際参加してみて、今後も人間関係については継続できるのではと感じた。残念ながらダットサン・ルイスさんは欠席され、96歳という年齢ではコーパクリスティからダラスへの移動は大変だったのではと推測。

・ 概要 (7月20日~7月24日(3泊5日))

- 7月20日 羽田発 → デトロイト(経由) → ダラス着 → ホテルへ
- 7月21日 Free Time
- 7月22日 TASO クリニック
- 7月23日 ダラス発 → ミネアポリス(経由)
- 7月24日 羽田着 → 自宅

7月20日(木) 日本出発

羽田出発時、搭乗に関するシステムトラブルや乗継便の方を待つ関係で1時間近く出発が遅れ、デトロイト・メトロポリタン・ウェイン・カウンティ空港に到着。入国審査でかなりの待ち時間を要し、予定の国内線乗継便に搭乗できず、5時間後の便に変更。(しかし、座席はラッキーかファーストクラスへ。)ダラス・フォートワース国際空港へ到着し、現地時間の23時頃、ホテルに到着となった。(移動に約25時間)



・会場

クリニックが行われたのは、ダラス・フォートワース国際空港から約20km離れた場所にある「ダラス・ルネッサンス・ホテル」。開業は1982年、2019年にリニューアルされ、客室数は512。別棟に広い会議室や、セミナー会場が複数あり、そこが今回のメイン会場。時間帯に応じて様々なイベントが準備されていた。



TASO FOOTBALL 2023 ANNUAL MEETING AGENDA

FRIDAY JULY 21, 2023		
TIME	ROOM	EVENT
7:00 AM - 7:00 PM	CHAMBERS 101 F CLUB GRAB-BAG	ZEDDA WIDE OPEN
10:00 AM - 5:00 PM	UNIVERSITY KNOX	UMP LINK STRIPES + CHAMBERS GRAB BAG
12:00 PM - 5:00 PM	2ND FLOOR PIC-NICK	REGISTRATION
10:30 AM - 5:00 PM	MOCKINGBIRD	DALLAS CHAPTER RATTLE
1:00 PM - 2:30 PM (KNOX & G2)	VICTORY	HATCH OSA
1:00 PM - 2:30 PM	STEMMONS H	REGISTRATION & RECEPTION
3:00 PM - 5:30 PM	STEMMONS A	THROWBACKS & SHIRT TAGS WORKSHOP
5:30 PM - 7:00 PM	STEMMONS B	TRAIN-THE-TRAINERS
7:00 PM - 11:00 PM	CITY VIEW	DALLAS CHAPTER HORROR NIGHT

7月21日(金) Free Time

朝食を済ませ、午前中よりヤマモト スポーツや、キュービークラブのような店(3か所)が開店。審判用具やお土産を購入。(店内の様子を撮ることを忘れてしまいました。)店によっては同じ商品でも1ドルずつ、値段の違うものがあったりして、購入を失敗してしまったものがあった。



その後、クリニック参加の登録(Registration)のため、受付に向かうと、「Michael Fitch」(Executive Director)さんにお会いでき、ご挨拶。今回の参加に関する感謝の意を伝えた。(ある部員から事前に、「“ねずみ男”に似ている。」という情報があつたが、どうでしょう。)



関西学連審判部から藤田 和宏さん、村上 雅英さんの2名参加の予定であつたが、都合により村上さん1名のみ参加。村上さんの到着も私たち同様、乗り継ぎや出発のトラブルの関係で予定より大幅に遅れ、ホテルへは午前3時頃の到着となつたと報告。午後から村上さんと共に、食事や観光へと計画したが、当日の最高気温、華氏108°(39°C)であり、また、移動の疲れがあり、今日は休息させてほしいということで、当日は特に一緒に行動することはなかった。東と東郷は同様に日中酷暑であつたため、共にホテル内の涼しい環境で過ごすこととし、特に観光はせず、夕食は隣のレストランで済ませた。

気温が少し下がった頃、近隣を散歩していたらカラスの泣き声に似た“鳥(オオナガクロムクドリモドキ)”や、野生の“リス”が道路を横断する姿があり、日本ではあまり見られない光景であつた。とにかく暑かつたが湿度は少なく、あまり汗の出ない気候。しかし、長時間の外出は熱中症の危険性があつたため、すぐにホテルへ移動。戻る際、ちょうど交通事故現場に遭遇。皆様、車の運転には十分に気を付けましょう。



7月22日(土) TASO クリニック

・会場の様子



(東 俊、参加セッション)

08:30~ “Game Management”

「ゲーム マネジメントとは、すべての人にフットボールの素晴らしい体験を提供することである。」と定義付けて、細部を説明するセッションであった。経験は、「前」「最中」「後」に分けて考える。Pre-Game Football Game Post-Game といった感じで、それぞれの重要ポイントを説明した。

09:30~ “Announcement & Signals”

「コイントス」に始まって「ゲーム終了」まで、アナウンスが必要となる17のシチュエーションを解説。特に、コイントス、反則/罰則の完成、について詳述。内容は、関東審判部のレフリースクリプトのものと同様だが、より初心者向けで、細かい点まで説明していた。

10:30~ “Passing Game 2023”

立ち見が出るほど盛況であった。2-19-2-aの定義からフォワードパスとは何かを確認することから始まった。メカニックとして重要なのは、自分自身のキーを知る事。その他、・Stay - WIDE、・Keys、・Move with Purpose 各ポジション別のパス ゲームにおけるメカニック/重要ポイントを確認した。パス プレーは流れに従って、“MAN” /” ZONE” /” BALL” が大事 など。

11:30~ “THE Kicking Game”

フリーキックでのプッシュメカニックを説明した後で、講師が出会ったケースを説明。パントプレーでスナップがホームランとなり、エンドゾーン内でパンターが不正なキッキング。リターンチームがリカバーしてリターンTDというケース。ルールとメカニックとちょっとしたヒントを説明してくれた。

- ・2023年度のルール変更の確認。
- ・各ポジション別のメカニック。
- ・フリーキックとスクリメージキックにおけるちょっとしたヒント。

講師の皆さんは、とても多くのパワーポイントを準備してくれていた。参考になる内容がとても多く、共有したい内容が多かった。

・BREAKOUT SESSION (8:30~12:20)

午前のクリニックは、参加者を6つの部屋に分け、セッションを進めていくという方式での開催。1セッションは50分、同じセッションが2回(セッション1と3、2と4が同じ内容)あるという方式。

一人の受講者は4つのセッションを受講可能。質問の対応も行いながら、タイムキーパーが必ずいて、説明が最後まで終わらなくても途中で打ち切れ、きっちり時間厳守での進行。

BREAKOUT SESSION #1

TIME	ROOM	TOPIC
8:30 AM 9:20 AM	SALON E-H	Penalty Enforcement
	SALON A-D	Officiating Standards and Philosophies
	STEMMONS A	Communication with Coaches
	STEMMONS B	Passing Game
	LANDMARK A	Game Management
	LANDMARK B	Crews of 3

BREAKOUT SESSION #2

TIME	ROOM	TOPIC
9:30 AM 10:20 AM	SALON E-H	Blocking Below the Waist
	SALON A-D	Major Fouls
	STEMMONS A	Kicking Game
	STEMMONS B	Announcements and Signals
	LANDMARK A	End of Half Clock Management
	LANDMARK B	6-Player Football

セッション終了後、名札に記載しているバーコードを担当者が読み取り、それが出席した証拠となるシステム。また、アンケートについて、出口にあるQRコードにアクセスし、各セッションの入力がWeb上でできる仕掛けがあった。休憩による移動は10分。大きな体の方々が続々と次の学びたい会場へ移動していた。



(東郷 竜二、参加セッション)
08:30～ “Officiating Standards

and Philosophies”

NCAA、CFO、NFLなどの各組織のフィロソフィー等を参考に、TASO用7人制オフィシエティングマニュアルが出来上がるまで。以前 Bill さんから説明のあった内容と同等のセッション。現在日本で存在するオフィシエティング マニュアルの内容に沿ったものであった。

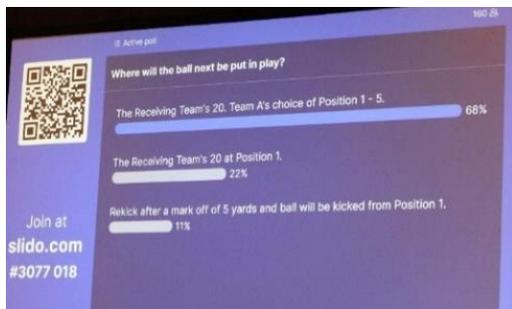
09:30～ “End of Half Clock Management “

5-5 の原則、10 秒減算に関するフローチャートを用いた説明（以前、関東審判部のクリニックで使った、もしくは Bill さんが説明したチャートを用いたプロセスの紹介）、3-3-4-a に関する2023年度ルール変更の説明（連続したタイムアウトコール NG 関連） 関東審判部で重点的に取り上げられている内容と同様であった。

10:30～ “Penalty Enforcement”

罰則を施行するまでのルール確認、(3-1 の原則、施行地点、ポストスクリメージキック地点等)、クレー間の役割分担やコミュニケーション方法について、インカムも有効に活用すること等、正しく施行するための方法についての説明。

このセッションでは、映像からのクイズが準備されていて、“Slido” というアプリを用いて QRコードにアクセスするとリアルタイムに携帯等からクイズに参加でき。選択内容がすぐに表示され、当日は体験できなかったが、簡単なクイズでも回答が割れることが何問もあってびっくりした。今後ミニクリでも活用できるのでは、使用方法を覚えてみたいと感じた。



11:30～ “Major Fouls”

反則の約 20%はメジャー ファウルであると説明あり、その中でもターゲティングや、スポーツマンらしくからぬ行為を中心に、該当する CFO 映像を再生しながら説明。セッションの中で反則かどうか、見えなかったものはコールすべきではないという内容が一番印象に残った。

POSSIBLE DISAGREEMENTS	見解の相違の可能性
Did not see an indicator	インジケータを見ていない
Did not see forcible contact	強力な接触を見ていない
Did not see helmet crown used (9-1-3)	ヘルメットクラウンの使用を見ていない (9-1-3)
Did not see contact to head/neck area (9-1-4)	ヘッドネックエリアへの接触を見ていない (9-1-4)

(不参加のセッション)

- ・ Blocking Below the Waist
- ・ Communication with Coaches
- ・ Crews of 3、Crews of 4
- ・ 6-Player Football

・ Lunch Time (12:20～14:00)
ホテルのレストラン以外にも複数台のキッチンカーが隣接、参加者は食事を楽しまれていた。



・ GENERAL SESSION (14:00～16:00)

約 1,100 人以上の参加者が一堂に会しての午後のセッション。州兵が臨場し国歌演奏、各支部に関する表彰、” GRIDIRON HEROES” という TASO と連携している非営利団体組織の紹介があった。



そして“Mike DeFee”さんのセッション、とても早口ではあったが、的確な説明や説得力のあるメッセージ、さすがNational Championship Gameのレフリーらしい振る舞いを間近で見ることができた。2023年度のルールチェンジの説明や、TASOのメカニック変更の説明を行い、クリニックは終了。以下の内容は特に心構えとして参考になった。



“CFO Crew Checklist”	CFO クルー・チェックリスト
<ul style="list-style-type: none"> • Be Loyal Lead by Example Unconditional Support Never throw someone under the bus 	<ul style="list-style-type: none"> • 忠実であれ 率先垂範 無条件のサポート 誰かを見捨てない
<ul style="list-style-type: none"> • Put Others Before Yourself How do you add value to the team Communicate and listen Be open the least of you may have the nugget 	<ul style="list-style-type: none"> • 自分より他人を優先する チームにどのような付加価値を与えるか コミュニケーションをとり、耳を傾ける オープンであれ..最も小さな者が、ナゲットを持っているかもしれない
<ul style="list-style-type: none"> • Be Reflective Learn from your mistake Learn from your supporters Don't be paralyzed 	<ul style="list-style-type: none"> • 反省する 失敗から学ぶ サポーターから学ぶ 麻痺するな
<ul style="list-style-type: none"> • Be Obsessively Organized Stick to Routine Find your Process Checklist - and cross items off 	<ul style="list-style-type: none"> • 整理整頓にこだわる ルーティンにこだわる 自分のプロセスを見つける チェックリストで項目を消していく
<ul style="list-style-type: none"> • Assume you Don't Know Enough Training is never complete Competition will not be sleeping Additional knowledge needed for “Elite Teams” 	<ul style="list-style-type: none"> • 十分な知識がないと思い込む トレーニングに終わりはない 競争は眠らない “エリートチーム”に必要な追加知識
<ul style="list-style-type: none"> • Never Get Comfortable Always push your comfort zone for max potential Integrity is fundamental - yourself and crew Congratulate Share Glory 	<ul style="list-style-type: none"> • 決して楽をしない 常に自分のコンフォートゾーンを押し広げ、 最大限の可能性を引き出す誠実さが基本 - 自分自身とクルー 栄光を分かち合う

クリニック終了後、関西学連審判部、村上 雅英さんと交流。3名で夕食を楽しみ、翌日から村上さんはビリー・ベケットさんのお家に、村上さんの奥様と途中空港で合流してから数日お世話になる予定であるとのこと。



7月23日（日） 帰国

午前3時頃ホテルを出発。搭乗手続きを済ませ、ダラスから、帰りこそ定刻通りに出発するかと期待していたが、今度は電気系統トラブル等で約2時間の遅延にて出発。乗り継ぎ場所のミネアポリス・セントポール国際空港へ到着するが、羽田行きの便が、出発40分前のタイミング。広い空港を急いで移動しなければならず、動く歩道のエスカレーターを何度も乗り継ぎ、早歩きで何とか羽田行きの搭乗口へ着いた時は、出発の15分前。離陸はほぼ定刻。羽田には予定通りに（日本時間、24日（月）午後）到着となった。

見知らぬ土地での様々なトラブルで疲労が多く残ったが、それも良い経験となった。覚えた英語のフレーズ、「I couldn't transit...」しかし、予定日とにかく帰国できたことが一番の救いであった。

【最後に】

今回は開催の1か月を切った段階での人選。選ばれた2人は、実はパスポートの期限が大幅に切れていたため、再申請やESTA登録、出発準備や仕事の調整、航空チケット予約、TASOクリニックへの参加登録等、不慣れな申請が多く、当日の出発までバタバタな状況が続きました。TASOの日程や開催会場等、ある程度の情報把握は必要かもしれないが、今後は、年度が始まる前の予算作業時の段階あたりから既に入選をしていくことで、様々な経費等が抑えられるのでは、また、入選された方々が安心して準備に取り掛かれるのではと思います。

現地での参加を経験することができ、本場アメリカの文化等を体験することができました。様々なセッションを通じて、沢山のヒントを得ることができました。この機会を与えていただいたことに感謝致します。これからも更なる技術向上に努めます。(とにかくダラスは暑かった！)

